



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

味嗅覚の科学

人の受容体遺伝子から製品設計まで

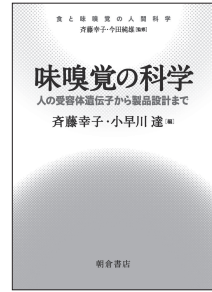
齊藤幸子

世界的な和食のブームや、国家的プロジェクトである味覚教育(食育)、香りで快適性を高めるといふ新商品の開発、悪臭を検知する臭気判定士の活躍、嗅覚同定能力と認知症との関係など、人の味嗅覚に関する社会的関心は高い。一方、私たちは個人生活においても、味やにおいの感じ方の違いに日常的に遭遇し、「個人の食品やにおいの嗜好は、いつ頃どのように形成されるのだろうか」という素朴な疑問を抱かされる。

本書の特徴は、このような関心に応えるべく、物質化学、分子生

物学・脳生理学・心理学の専門家が、「味・におい物質が口や鼻に取り込まれ、味細胞・嗅覚細胞に受容され、神経に伝達されて、脳に伝わり認知される過程」を、また、新生児・子供や高齢者を対象にした発達の側面の研究を、さらに環境分野、医療分野、製品設計で行なわれている応用研究を広く紹介している点である。

この一冊で、現在の人の味嗅覚研究の全貌を知ることができる便利な書でもある。味嗅覚について関心のある学生、大学人、社会人にぜひ手にとっていただきたい。



共編 齊藤幸子・小早川達

発行 朝倉書店

A5判 / 264頁

定価 本体4,500円+税

発行年月 2018年6月

さいとう さちこ

齊藤幸子味嗅覚研究所所長。専門は嗅覚・味覚心理学。著書はほかに『嗅覚概論』(分担執筆、におい・かおり環境協会)、『においの心理学』(分担執筆、フレグランスジャーナル社)、『人間計測ハンドブック』(分担執筆、朝倉書店)、『新編 感覚・知覚心理学ハンドブック Part 2』(分担執筆、誠信書房)、『匂いと香りの科学』(分担執筆、朝倉書店)など。

生理心理学と精神生理学

第I巻 基礎

坂田省吾

『生理心理学と精神生理学』全3巻が刊行されました。第I巻の編集者として全巻の内容も紹介させていただきます。本書は基礎から応用・展開まで生理心理学研究の現時点の到達点を示すものとして、日本生理心理学会会員から多くの執筆協力を得て刊行されました。第I巻基礎では生理心理学誕生の歴史的経緯から研究法の基礎的内容までを重点的に解説しています。基礎的知見を体系的に整理し、最新の研究成果を幅広く紹介してあります。第II巻応用では感情・情動、認知、社会・健康、睡

眠、犯罪、スポーツ領域における最新の成果を示しつつ、必要に応じて動物実験を含めた基礎的知見にも言及しています。生理心理学的測定技術および解析についても詳述しています。第III巻展開ではワーキングメモリやデフォルトモードネットワークを中心に脳と心の関係の最新の成果を紹介しています。発達・教育・臨床等の他分野への展開もめざましい。国家資格試験の受験対策としても活用してください。脳と心に関心をもつ若い人達に広く読んでいただけると幸いです。



監修 堀忠雄・尾崎久記

共編 坂田省吾・山田富美穂

発行 北大路書房

B5判 / 320頁

定価 本体3,800円+税

発行年月 2018年6月

さかた しょうご

広島大学大学院総合科学研究科教授。専門は生理心理学・時間心理学・比較心理学。著書はほかに『心理学基礎 実習マニュアル』(共編、北大路書房)、*Functional and neural mechanisms of interval timing* (分担執筆、CRC Press)、『パピエーニの比較心理学：行動の進化と発達』(分担共訳、北大路書房)など。